

— 集中化・激甚化する大雨 —

草加市の取組



草加市は、水害の発生しやすい特徴があります。

- ①お皿のような地形で、水がたまりやすく、排水されにくい
- ②市内外に流れている複数の河川は、勾配が緩やかなため、感潮河川（東京湾の満潮時に海水が川に逆流する）となっており、浸水リスクが増大
- ③都市化の急激な進行による、田・畑等の保水・遊水機能の減少

市では、実際に起こりうる状況を想定し、災害時の役割やノウハウを取得するため、以下の取組を行っています。

- 図上訓練や避難所対応を行う職員への訓練
- 災害時医療や水害に対する職員研修会
- 被災地への職員派遣・庁内への報告会

本市では、これからも台風などの災害に対して対応できるよう、訓練や知識の習得を行っています。

■水害対策（一部抜粋）

水害発生リスク軽減のために 行っていること

水路の排水能力向上に向けた整備を推進するとともに、排水機場及びポンプ場や雨水貯留施設を整備し、適切に稼働することで、総合的な治水対策を推進しています。 閘建設管理課 ☎922-2069 ☎922-3152
危機管理課 ☎922-0614 ☎922-6591

想定浸水深表示板



日常生活の中で水害の危険性を認識し、市民の皆様には防災意識を高めていただくため、河川が氾濫した場合に想定される浸水の深さを表示した看板です。

電柱や防災無線のスピーカー塔に計131か所に設置をしています（2024年5月時点）。



浸水センサ



国土交通省主催のワンコイン浸水センサ実証実験を行っています。

浸水がよく発生する箇所や令和5年台風2号で浸水被害のあった場所等に、約100個の浸水センサを設置予定です。浸水や水位の上昇を早期に把握することで、迅速かつ的確な対応を図ることを目的としています。

雨水貯留施設



雨水貯留施設は、降った雨を一時的にため、河川の水位上昇を抑えるとともに、大雨により水路からあふれそうになった水をためることで、浸水被害を起こりにくくしています。

大雨がおさまり河川の水位が低下した後に、ゆっくりと河川へ排水します。

排水機場



本市が位置する中川・綾瀬川流域は地盤が低く、大雨により河川の水位が上昇すると、排水しにくくなる地形的な特性があります。

そのため、大雨時には河川からの逆流を防ぎ、ポンプで強制的に排水する排水機場を稼働することで、浸水被害を起こりにくくしています。

水害対策 ○×クイズの解答 … すべて○

Q1. 緊急時は、車で避難しない方が良い？

解説 緊急時は車の水没や事故の可能性があり危険。原則、車では避難しない。

Q2. 警戒レベル5でも、必ずしも避難所に避難する必要はない？

解説 安全が確保できている場合は、必ずしも避難所に行く必要はない。草加市では自宅の2階の方が安全な場合も。

Q3. 雨が激しくなったら、川の水位を見に行かない方が良い？

解説 河川の氾濫は一気に起こることがあるため、川の水位を確認したくなくても絶対に近づかない。

